

# 優しく微笑みをたたえる仏像

良福寺の集落の西に小高い丘のような所があります。ここにぼっくり寺として有名な阿日寺があります。

石段を登り、薬医門形式の表門をくぐると、東向きに本堂があり、その前にはソテツの大き木が古びた石塔とともに風趣を添えています。黒々とした屋根瓦の向こうには二上山が望めます。

この本堂は江戸時代の享保年間に建てられたと伝えられている風格のある建物。阿日寺は恵心僧都(源信)の生まれの所として知られ、縁の寺として文化財を多く有しています。

源信は平安時代中期の天台宗の高僧で、浄土教の重要な著作「往生要集」を著した人。比叡山の横川恵心院に住んでいたため、恵心僧都と呼ばれました。九歳の時に比叡山に登り、十三歳で得度したと伝えられている源信には、その天才ぶりを示す多くの逸話が残されています。そして、源信は僧侶として傑出していただけでなく、絵画、和

讃、和歌にも優れ、後世の思想や文学に大きな影響を与えました。

大永七年(一五二七)の開山と伝えられる阿日寺ですが、源信がここで生まれたという伝



承から、その孝心を尊んで無病長寿、安楽往生の信仰を集めています。俗にぼっくりさんといって、高齢者が家族たちに世話をかけないで往生したいと全国各地からお参りにやってくるといわれています。

この阿日寺には多くの文化財がありますが、なかでも奈良国立博物館に寄託されている絹本着色聖衆来迎図は、源信絵伝としてすぐれたものとして知られています。また重要文化財に指定されている木造の大日如来座像も有名です。六〇センチほどの高さで、円形の後背をもっています。そのおだやかなお顔には、やさしげなほほ笑みがたたえられ、流れるような曲線を描く衣、端正な姿には時代を越えてきた力のようなものを感じざるを得ません。仏教美術の粋のような仏像です。

この大日如来とは宇宙のすべての生きとし生けるものの本質を仏格化したものです。それが人間に分かるように仏の形をしているわけです。頭には宝冠をかぶり、飾られた姿で、まさに仏の中の仏という気品あふれる仏像といえるでしょう。

シリーズ・まちの文化財

第二回「木造大日如来座像」